

平成29年度 学校評価

1 教育方針

校訓「労学一如」の精神を念頭におき、生徒たちが、自ら実践している仕事と学業の両立を支援し、汗して働き、意欲を持って主体的に学ぶ態度を育成する。さらには、一人一人が社会を構成する一員としての責任を自覚し、集団生活を営む上で必要な基本的生活習慣や規律、基礎学力の習得を行い、将来の地域社会の担い手となる生きる力を培った人材の育成をめざす。

2 教育目標

- 1 「確かな学力の習得」
- 2 「社会性の涵養」
- 3 「将来を切り拓く強い心の醸成」

3 平成29年度の重点

ア	生徒の実態に応じた指導体制の確立
イ	体験活動を通じたキャリア教育の推進
ウ	安心・安全な学校づくりの推進
エ	広報活動の推進と地域・家庭との連携
オ	学校の組織力及び教職員の資質能力の向上

4 学校自己評価 (A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

領域	具体的目標	重点	具体的方策	評価	次年度への課題
教科指導	基礎的・基本的事項が定着するよう教科指導に努める	ア	習熟度別指導や同室複数指導の効果的活用	B	「社会への扉」及び総合的な学習の時間を通して、キャリア教育の充実を図り、生徒の意欲向上を目指すとともに、公開授業の充実、アクティブラーニングを取り入れるなど指導方法を工夫し、具体的な進路へつながる「キャリア教育」の教科横断的な具体化を検討する。
			学校設定科目の指導内容及び指導方法の研究・開発を期す	B	
	生徒個々の能力・適性を伸ばし、自ら学ぶ意欲と態度を養う	イ	キャリア教育を見据えて教育課程を編成、運用する キャリア教育の一環として、総合的な学習の時間を展開する	A A	
	「わかる授業」にむけて、授業研究や教材開発を行う	オ	公開授業・研究授業を組織的に行う 授業アンケートを行う	B	

生徒指導	規律ある生活習慣を身につけさせ、規範意識を高める	ア	学校いじめ防止基本方針の「早期発見・早期対応・未然防止」の取り組みを活用する	B	生徒アンケートを踏まえ、学校生活上の対処すべき問題、課題の把握に努め、未然防止の取り組みを強める。生徒会執行部をはじめリーダー層の育成に努める。また、各種委員会等生徒会組織の活性化に努める。学級経営、学年経営と連動した学年通信の発行や保護者連絡に努める。
	生徒が主体となる活動を企画・推進した	イ	クラス企画を主とする文化祭を実施する	A	
		ウ	清掃活動、ボランティア活動等の充実	B	
	生徒とのふれあいを密にし、多様な生徒の内面理解に努める	エ	学年会等での生徒情報を共有化する	B	
		オ	三者面談、二者面談を効果的に活用する	A	
進路指導	計画的な進路指導を行い、進路意識の高揚を図る	イ	学年毎のキャリア教育プランを見直す	B	キャリアシップ制度の定着と充実を期し、実施上の課題を明確にする。また、適切な対応を検討する。進路意識の向上や進路選択のミスマッチを回避するため、ガイダンスの機能の充実を図る。教育課程の編成、運用と進路指導との連関に今後とも留意する。
			進路ガイダンスや進路LHRを適宜行う	A	
	個々の生徒に適切な指導が行える指導体制を確立する	ア	組織改編を指導体制の充実に活かす	B	
エ		本校独自のインターンシップを展開する	A		
	キャリア教育の一環として進路指導を推進する	イ	学校設定教科「社会への扉」等の教科指導や総合的な学習の時間の指導と関連をはかる	B	
環境整備	防災体制の整備・充実を図る 施設設備の整備・充実を図る	ウ ア	避難訓練の振り返りを行い、防災マニュアルを不断に見直す 錦城園、図書室の整備・充実を図る	B	年2回の避難訓練を継続する。図書室、生徒待機スペースの活用を図る。
特設課題 (心のサポート)	各指導領域の関連を整理し、指導体制の確立を図る	ア	推進チームを設け、行事や総合的な学習の時間及び学校設定教科を核に指導する	B	Q-Uの手法を個別指導や学級経営に活かす。「高校生」の教材化に努め、使用回数を増やす。
	新しい生徒指導の知見を習得し、指導力の向上を図る	オ	外部講師を招聘するなど職員研修会を充実させる	A	

5 学校自己評価に対する学校関係者評価

学校自己評価は概ね妥当であるが、生徒アンケートや保護者アンケートに見られる否定的な回答は、たとえ少数であっても危機感を持つ必要がある。特に「学校は安全・安心な場所」というのは最優先に達成されるべき課題であり、教職員は今まで以上に意識して、きめ細やかな対応をお願いしたい。